

清水窪小 授業改善推進プラン2023 全体計画

大田区立清水窪小学校

おおた教育ビジョン「豊かな人間性をはぐくみ 未来を創る力を育てる」(2019大田区教育委員会)

施策を推進する4つのビジョン

ビジョンI 社会の劇的な変化に対応し、未来創力教育を育てる

ビジョンIII 意欲にあふれ、個性の可能性を最大限に伸ばす学びの場を創出する

ビジョンII 知・徳・体の調和のとれた成長を図り、豊かな人間性を涵養する

ビジョンIV 地域の特色を生かし、学校・家庭・地域連携・協働して子どもを育てる

学校の教育目標

人間尊重の精神に基づき、国際社会において信頼と尊敬を得られる人間の育成を願うとともに、東京都や大田区の教育目標の趣旨を踏まえ、本校の豊かな学習環境を生かし、知性と感性に富み、主体的に行動できる児童を育成できるよう、次の目標を設定する。

- 自然や友達を大切にする子ども
- 心身ともにたくましい子ども
- よく考え、最後までやりぬく子ども

今年度の重点目標

文部科学省教育課程特例校・大田区教育委員会「おおたサイエンススクール」として、教育活動全体を通して理科教育・科学教育を推進し、自然や人、もの、ことと豊かに関わり、科学的思考力、コミュニケーション力を発揮しながら、主体的・対話的に学びを深め、共に生きる人間力を育む。今年度も引き続き「科学大好きな子どもを育てる」を重点目標とし、学習指導要領の趣旨を踏まえ、サイエンスコミュニケーション科の質的向上を図っていく。

科学大好きな子どもを育てる

科学教育の推進を通して、自然や人、もの、ことと豊かに関わり、科学的思考力、コミュニケーション力を発揮して、主体的・対話的に学びを深め、未来の科学を担う「科学大好きな子ども」を育成する。

目指す子どもの姿

- ◆ 「なぜ」「どうして」を大事にして「やってみよう」と、自ら問いをもち、問題を追究している子ども
- ◆ 主体的・対話的に学びを深め、学んだ知識を知恵として学習・生活に生かしている子ども

育てたい子どもの力

知・徳・体の調和のとれた 「生きる力」の育成

全教科等の授業改善に関わる取組 6の基本方針

- ◆ 全教科等において、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業を具現化すること
- ◆ 児童が自ら問いを見だし、見方・考え方を働かせて、主体的に問題解決していく授業をつくりだすこと
- ◆ 児童が人、もの、こととの豊かな関わりや対話を通して、試行錯誤しながら考えを広げ深めていく授業をつくりだすこと
- ◆ 効果的にICTを活用し、児童が興味・関心を高め、どの児童にもよく分かる授業をつくりだすこと
- ◆ 児童の学習する姿等から学習状況を丁寧に見取り、その評価を基に、課題に対して指導方法の見直しを図ること
- ◆ 校内研究・研修、教員相互の授業観察、OJT等を通して自己の授業力を向上させるために学び続けること

自立に向けた育ちと学びの充実を図る具体的な改善策

確かな学力の向上

～主体的に問題解決する力の育成～

- ◆ 各教科等において、主体的・協働的な問題解決の場を設定し、知識・技能の習得及び思考力や表現力を育む。
- ◆ 読解力向上に向け、学校図書館及び読書学習司書やボランティアを活用した読書活動を推進するとともに読書習慣の定着を図る。
- ◆ 一人一台のタブレット端末を有効に活用し、情報活用能力を高め、学習活動の充実を図る。
- ◆ 外部専門機関、外部人材と連携した学習活動の充実を図る。
- ◆ 読書学習司書を活用した読書への興味・関心を高める取組を充実させ、朝読書、読み解きタイム、読書週間等を通して、読書習慣の定着を図る。
- ◆ 東京ベーシックドリルや大田区算数ステップ学習(電子版)等を活用し、児童の習熟度に合わせた習熟度別少人数学習や補習教室等により、基礎・基本の定着を図る。
- ◆ 大田区学習効果測定の結果分析を基に、授業改善推進プランを作成し、主体的、対話的で深い学びの視点からの授業改善を図る。

豊かな心と社会性の育成

～規律ある生活態度・態度の醸成～

- ◆ 人権尊重の精神を育む講話、人権の花の栽培、標語、ポスター作り等の活動の充実
- ◆ 「清水窪スタンダード」を基に、日常生活における規律の必要性の認識を高め、社会の一員として重要な規則尊重の意識の向上を図る。
- ◆ 「善悪の判断、自立、自由と責任」「親切、思いやり」を重視した道徳教育を通して、他者とよりよく生きるための基盤となる道徳性を涵養する。
- ◆ 「いじめアンケート」を毎月実施し、いじめ等の早期発見と早期解決を図る。
- ◆ たてわり班活動による異学年での交流を継続的に多様な場面で実施し、自己の成長の自覚と思いやりの心、自己有用感の醸成を図る。
- ◆ 地域や外部の方々との触れ合いや、直接的・体験的な活動を重視した学習を通して社会性を育む。
- ◆ 和太鼓学習「清水窪かしわ太鼓」を通して日本の伝統文化への理解と愛着を深める。
- ◆ サポートルームや関係機関との連携を密にし、特別な支援を要する児童の自立に向けた主体的な取組を支援する視点から適切な指導を行う。

健康・体力の向上

～自ら健康で安全な生活を創り出す力の育成～

- ◆ 「早ね早おき朝ごはん」の取組で学校と家庭が連携して基本的な生活習慣の定着を図る。
- ◆ 食の素晴らしさへの興味・関心を高め、望ましい食習慣を形成する食育を推進する。
- ◆ 運動会、水泳記録会、体育朝会、持久走大会等の体育的行事を充実させ、児童の体力の向上を図る。
- ◆ 体力テストに向けた自己の目標の設定と、体力テストの結果から課題を把握し、改善に向けて取り組む。
- ◆ 体育・健康教育授業地区公開講座をはじめ、地域、外部団体との連携を図り、健康的な生活態度の体得を図る。
- ◆ 安全・安心な環境整備と防災・交通事故防止・不審者対応等、危険を回避する能力を育てる安全教育の充実を図る。

授業改善に向けた視点

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

- ① **主体的な学びの視点** 学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる学びが実現できているかという視点で改善する。
- ② **対話的な学びの視点** 児童同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えることなどを通じ、自己の考えを広げ深める学びが実現できているかという視点で改善する。
- ③ **深い学びの視点** 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特徴に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう学びが実現できているかという視点で改善する。

※ 各教科の改善策シートの「全体」欄に、各教科の特徴に応じてどのような学習活動への改善を図るのかについて明記

各教科における授業改善の重点

国語：日常生活における人との関わりの中で、伝え合う力を高め、思考力・想像力を養う。
社会：ICT 機器や資料などを用いて調べ学習を計画的に行い、資料活用能力と自分の考えを表現する力の向上を図る。
算数：自力解決力とともに主体的な対話を通して問題解決力の育成、電子版算数ステップアップ学習を効果的に活用し学び残しを解消する。
理科：観察・実験を通じた主体的な問題解決型の学習により、科学用語や機器扱い方の習得等、知識・技能の確実な定着を図るとともに、科学的思考力の育成、考察過程の重視、サイエンスコミュニケーション科と関連させた体験学習、発展学習の充実を図る。
生活：具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立生活を豊かにしていくための資質・能力を育成する。
音楽：表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成する。
図工：表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成する。
家庭：生活の営み関する見方、考え方を通し、基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、日常化を図る指導の充実を図る。
体育：心と体を一体として捉え、自己の目標を設定するとともに、体力テストの結果から課題を把握し、改善に向けて取り組む態度を養う。
外国語：日常生活に関する身近で簡単な事柄について、歌やゲーム、コミュニケーションを繰り返すことを通して、聞くことの基礎的な技能の定着を図る。
サイエンスコミュニケーション科（全学年において年間35時間実施）
：児童の「なぜ」を深化・発展・継続し、知的探究心や理科学習で得た知識の活用、最先端技術・知識等を体系的に取り入れた科学学習プログラムを通じた科学的思考力や表現力の育成、我が国における科学技術を支え国際的に活躍する日本人の素地を育成する。

教育課程編成の工夫・改善

- 各教科等の改訂の趣旨を踏まえ、年間指導計画及び評価計画を改善する。
- 文部科学省教育課程特例校として特設したサイエンスコミュニケーション科（以下SC科）のカリキュラム改善を図り、一層の質的向上を図る。
- 適ごとの指導計画を通して授業の進行管理、授業時数の管理を徹底する。

学習指導の工夫・改善

- 全教科等において問題解決的な学習や体験的な学習を重視し、児童の自主的・自発的な学習を一層充実させる。
- 理科教育の推進に当たり、理科・SC科において、自然現象との出会わせ方を工夫し、気付きや疑問から児童が見だし、予想・仮説を設定し、結果の見通しをもった観察・実験を通して妥当な考えをつくりだすといった、清水窪学びの10のプロセスに添って、主体的に学習を進める態度を養い、問題解決の力を育成する。
- 国語科においては、各教科等の基礎となる言語活動のスキルを計画的に指導し、コミュニケーション力の向上を図る。また、音読による内容理解、漢字小テストでの漢字の習得など、国語の基礎・基本の確実な定着を図る。
- 朝読書、図書の日、読書週間において、読書学習司書を活用した読書活動を充実させることにより確かな読書習慣を身に付け、読書の質を向上させる。

学習評価の工夫と指導方法の改善

- 学習評価は、児童一人一人の学びが確かなものになるように促すための評価という視点を一層重視し、客観性・妥当性のある適正な評価をする。
- 学習評価を教師の指導改善につなげるとともに児童の学習改善につなげる。
- 授業の中で児童の学びの結果から次の学習や指導の改善を図るため、教師の指導のねらい、すなわち指導観を明確にもった授業の構想、展開を行う。
- 学習指導要領を踏まえ、評価の観点を「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理した評価基準を作成する。
- 「学びに向かう力、人間性等」の評価
 - ①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別学習状況を評価する部分
⇒知識及び技能、思考力、判断力、表現力等を身に付けるための粘り強い取組の側面と、その中で自らの学習を調整しようとする側面（＝学習の進め方について試行錯誤する側面）の2点で目標に準拠した評価を行う。
 - ②「感性、思いやり」として個人内評価をする部分
⇒その児童の良い点や可能性、進歩の状況等、その児童なりの伸びについては、個人内評価として評価する。教師が見取ったことを直接伝えたり、ノートへのコメントで伝えたり、通知表の所見文で伝えたりなどする。

研究・研修活動の推進

「おおたサイエンススクール」として、「科学大好きな子どもを育てる」を研究主題とし、理科教育の推進に資する研究を進める。そのために、文部科学省教育課程特例校として特設した独自教科「サイエンスコミュニケーション科」の質的向上を図る。
学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善、特別支援教育、いじめの未然防止等、今日的な教育課題に関する校内研修を計画的に進める。また、OJTとしては、理科やその他の教科において研究授業を参観し合い、互いのもつ知識・技能を学び合うことにより切磋琢磨し、各自の指導力の向上を図る。
区教研やその他の研究・研修会に積極的に参加し、その成果を自己の授業改善に生かすとともに校内に普及啓発する。

家庭・地域社会との連携等

学校だより、ホームページ等により、学校の教育目標や経営方針についての理解と協力が得られるように努める。
保護者や地域教育連絡協議会等の外部評価及び各行事や学校公開時のアンケート調査により、本校の教育活動に対する期待・要望を把握し、目標設定に反映させていく。
学校支援地域本部により、夏休みわくわくスクール、地域人材・施設の活用や地域の教材化を充実させる。
保護者・地域に「科学大好きな子どもを育てる」環境づくりの一層の理解啓発に努める。